

新ならやま投句箱

俳句

落ち残る柿にメジロが二羽三羽

菊川 年明

染め布に水仙の丈競い合ひ

小島 武雄

凛として古武士のごとき枯木かな

藤原 勲

熟し柿一つ残りて春を待つ

坂東 久平

春光や土竜の塚の六つ七つ

古川 柳司

生駒山神の気まぐれ小雪舞う

羽尻 崇

陽光に足速めたり心浮く

八木 順一

山茶花や咲き継ぎ散り継ぎ紅散らす

山本 美智子

春が来た能登にも飛んでけ飛んでけ春

國方 まり子

春ゆやけ来し方行く末はんなりと

豊田 浩代

ならやまの手作りの道春陽さす

清原 加代子

腰痛め眠りが仕事春を待つ

阿部 和生

川柳

年玉を震災寄付する孫さすが

トラキチ

鳴き声と眼力に負け飼秤る

たけちやん



新ならやま投句箱への投句有難うございます。今後ともよろしくお願いたします。

短歌

恵方巻入歯の向きも東北東

柳司

我を待つ両手広げてボランテイヤ

順ちやん

梅剪定期待するのは水無月か

福ちやん

鬼は外呆けと痛い連れてつて

膝痛い

高齢者デビューでヤッター無料やで

ねこしやら子

インフルかコロナか花粉か休みなし

鼻水

行司転け烏帽子吹っ飛びやつるつばげ

フランカー

インフルも風邪も蹴散らし春が来る

ぜんさん

腹減った朝飯前の金毘羅宮

のぶ

路地塀を覆い尽くすや枝垂れ梅

内河 洋文

車停めると妻がつぶやく

内河 洋文

春誘う梅のかんざし華やぎて

谷川 雅邦

門出の孫へ指折りかぞえ

谷川 雅邦

節分の庭の豆粒一日で

谷川 雅邦

春の鳥たちご馳走さま

戸田 博子

笹鳴きに耳を澄ませばホーホケキョー

戸田 博子

春待つ人に届けとばかりに

千載 輝重

初めての体験にはしゃぐ幼子の

富江 文雄

真つ赤なほほに焚火のけむり

富江 文雄